

質問

通院しながら抗がん剤治療をしています。徳島で熊本のような大規模地震が発生したら、治療が中断されてしまい、がんが進行するのでは不安です。また、手持ちの抗がん剤がなくなってしまうら、どうしたらいいのでしょうか。

# 大規模災害への備え



埴淵 昌毅  
徳島大学病院がん  
診療連携・徳島がん  
対策センター長

回答

今回の熊本地震で被災した方にお見舞いを申し上げます。ともに、被災地の一日も早い復旧・復興を心よりお祈りします。

徳島県でも近い将来に想定される南海トラフ地震の発生時には、医療機関が被災したり、負傷者を大勢受け入れたりと、平時の機能を失うことが予想されます。災害時に手持ちの抗がん剤がなくなってしまう事態を考え、事前に準備できることは、自身の病状や治療内容を可能な限り把握しておくことです。〈表参照〉。患者さんごとの診療計画や治療記録を分かりやすく記した「治療の記録ノート(患者手帳)」を持っていただ、医師が病状をスムーズに把握するのに役立ちます。停電や交通機関の寸断、診療所の損壊などで、がん治療が中断された場合は、できる

## 治療内容 患者も把握を



ください。手元に服用方法が分かる内服の抗がん剤があれば、そのまま服用を続けましょう。

今回の熊本地震を受け、がんの治療を受けている患者さんや家族は普段にも増して不安を感じていることと思います。徳島大学病院がん相談支援センターにも、有事の際の薬の不足やがん治療の中断などについて不安の声が寄せられています。こうした不安を解消するためには、あらかじめ対応システムを整備する必要がある、徳島県は2015年度に「医師・医療関係者とがん患者会等とのネットワーク

だけ早く主治医と連絡をとって、治療を継続できる方法を探ってください。連絡がつかなければ、かかりつけ医が最寄りの病院の情報窓口相談を。薬がなくなったり、服用方法が分からなかったりする場合も、同様の対応をとって

ク構築事業」を発足させました。定期的に開く会議では、県や患者会、医療従事者などの代表者が活発に意見交換し、患者さんが災害時も安心してがん治療を継続できる仕組みづくりを進めています。具体的には、医療機関に寄せられる相談内容を想定し、事前に実際の対応方法を検討するほか、災害時に切れ目のない医療救護活動ができるよう、医療チームの配置や情報収集の司令塔となる災害医療コーディネーターとの連携を進めていきます。また、県庁と医療機関を結んで被災情報をやりとりする「災害時情報共有システム」を活用し、医療機関や患者団体などが、がん治療の機能を維持している病院を紹介できるようにします。「すだちくんメール」による医療機関の被災情報の提供も行う予定です。

災害に備えて事前に把握しておきたい項目

- ①病名 (がんの部位)、進行度 (がんの病期またはステージ)
- ②これまでに受けた治療 (薬物療法や放射線療法、手術など)
- ③直近の治療日
- ④主治医の名前と病院名
- ⑤投与中の薬剤名 (抗がん剤やその他の薬剤)
- ⑥がん以外にかかっている病気や健康に関する問題点

## 不安解消へ県や医師連携

このように、徳島県では災害時にも患者さんや家族に安心して治療を続けてもらうための体制づくりを進めているところです。少しでも早く万全の支援体制が構築できるよう、引き続き努力していきます。(第4土曜掲載) がんに関する質問は徳島がん対策センターへ電話088(634)6442(平日午前8時半から午後5時まで)にお寄せください。詳しくはセンターのホームページ <http://www.toku-gan-taisaku.jp> をご覧ください。